

高橋和夫 議員



中心市街地の消火・救急 活動円滑化に道路拡幅を

問

中心市街地の消火・救急活動迅速化のために、道路拡幅と消火栓からの取水の円滑化を聞く。

生活の安心・安全のため、消防の消火・救急活動整備も重要な課題である。1月の中六商店街の火災はまだ記憶に新しく、幾つかの問題点が明らかになった。

それは、道路が狭く、消防車の活動が制限されたこと、JR・近鉄線に挟まれる地域のため、消火栓からの取水が限定されたこと等が主な問題点である。

鉄道に挟まれた中心市街地は生活道路が狭く、消防・緊急車両の進入困難地域が多々ある。

その解決方法に長年の課題である駅前整備計画があるが、市長の考えを聞く。

困難な状況だが 総合計画に反映する

答 市長

駅前整備計画は、長い歳月をかけて皆さまで議論しているが、足かけ30年になるだろうと思う。大変難しいことが多々あるが、一つの考え方として再度整理をしたいと思う。

中六の道は、県道木曾岬・弥富停車場線である。この道路拡幅に対しては土地区画整理事業を行うことが最大の解決策になるかと思うが、これすらも大変困難な状況であることは承知の通りである。

しかし、総合計画にその都度反映をしながら、県に対しこの整備事業を要望し

ていきたいと思う。

JR・近鉄・名鉄線のレール下を配管して消火栓の取水をすることについては、鉄道の安全性からも非常に困難だと判断している。

国道1号からカーマホームセンター北側を通って、近鉄線の側道に至る市道に

消火栓を設置する件は、現在、50mmの塩化ビニール管が布設され、これを75mmに変更しないと消火栓としての機能が足らない。

変更について、十分海部南部水道企業団等と協議していきたいと思う。



▲中六商店街(綱浦町地内)